



令和4年12月2日(金) 県議会 11月定例会 本会議 一般質問

1 勝興寺の国宝化について

① 国宝として評価された点、今後の文化的価値の継承について問う。

答 弁(荻布教育長)

土塁や濠を巡らせた中世の城館を想起する境内に修復されたことに加え、全国的にも屈指の規模を誇る壮大な本堂、本山寺院で成立した上質で格式高い応接間への変遷が明らかになった大広間及び式台と併せて地元の方々の熱意と努力が評価された。魅力や特徴を活かしたイベント開催など継続的な活用に向けて高岡市や地元関係者と連携強化し必要な支援、協力をを行う。

志願の質問
○生まれ育った伏木の勝興寺の国宝指定を取り上げた針山氏。実は今回、自民の中で質問する順番ではなかったが、国指定を受けて志願したという。「歴史的な瞬間に立ち会えた」と喜び「子どもの頃は勝興寺が格好の遊び場」(な)

であり、国宝級の価値を理解できず、「いまだに話せないくらいで、なかなか抜いてきたことが少しはあった」と笑いを誘うなど「ふるさとへの思いを存分に。終了後は、県の答弁も前向きで手応え十分だった。質問させてくれた1期生の皆さんのおかげ」と感謝の意を述べた。

2022年12月3日 富山新聞

② 広域的な観光誘客の推進への取り組みを問う。

答 弁(知事)

北陸三県が一体となった首都圏へのPR、大手旅行会社と連携した誘客キャンペーン、JRと連携した旅行商品づくりなど食・自然・伝統文化など観光素材の磨き上げや歴史的建造物等の多彩な観光資源の魅力をつないだモデルコースの作成などを進めたい。



2 県内経済及び地域交通について

① 電気料金値上げなどの経済への影響、県税収入の見通しを問う。

答 弁(知事)

国の予算案に電気料金の負担軽減策が盛り込まれているし、県も必要な支援を検討する。県税収入は4年度を上回る見通しとしていたが、法人アンケートを通じて状況把握に努め、新年度予算編成時に改めて積算する。

② 北陸新幹線敦賀開業および高岡テクノドーム別館整備による県内経済効果への期待を問う。

答 弁(中谷商工労働部長)

関西・中京方面からの所要時間短縮効果を生かすとともに関東方面から新たに訪れる方も含めて取り込む施策を推進。高岡テクノドーム別館は可動式客席や5Gを活用した学会やセミナー、コンベンションなどの誘致。県西部を中心とした観光や文化、伝統工芸などのイベントの開催を進める。



富山県HPより

3 県職員の採用について

① 県職員採用の試験制度等の検討状況を問う。

答 弁(人事委員会事務局長)

令和5年度から上級試験では申込開始日を前倒し、技術職種では教養試験を廃止。合格後の採用候補者名簿の登録期間を3年へと延長。初級試験でも技術職種区分を新設。警察官採用試験も実施を2カ月前倒しなど過去に例のない大幅な見直しをする。

2023年度採用試験の制度変更

上 級	申し込み期間を前倒し、募集期間を現在の2倍の30日以上にする
上級技術職	採用候補者名簿の登載期間(合格後の有効期間)を3年まで延長可能 第1次試験で教養試験を廃止
初 級	総合土木を新設
就職氷河期	就職氷河期を対象とした試験を2年間延長。対象を全国に拡大
UIJターン	採用試験の継続
第1回警察官	受験案内配布や申し込み期間、試験、合格者決定などの日程をいずれも約2カ月前倒しする



令和5年3月8日(水) 県議会 2月定例会 予算特別委員会

1 物価等の高騰について

① 文化施設やスポーツ施設において使用料等の見直しの検討について問う。

答 弁(広島生活環境文化部長)

全国や県内の類似施設の利用料金の設定状況を勘案し、毎年の予算編成時に検討している。令和5年度は北陸・東海など近隣の類似施設において使用料改定を予定しているものがなかったことから提案しない。



富山県高岡文化ホールHPより

2 公共交通について

① 氷見線・城端線で検討されているLRT以外での需要予測について問う。

答 弁(田中交通政策局長)

令和3年3月にLRT化需要予測調査報告を取りまとめた。需要は既存需要、転換需要、外出頻度増加需要の3つから構成されており、LRT以外の交通モードにあっても運行本数を増やし、利便性を向上させることで需要は伸びると予測している。

② 氷見線・城端線で検討されている新しい交通モードの整備スケジュールについて問う。

答 弁(知事)

新型鉄道車両の導入が望ましい。令和5年度から地域公共交通活性化再生法に基づく、国の新しい支援制度の活用を視野に氷見線・城端線の利便性・満足度向上に向けて沿線市、JRなど関係者と取り組んでいきたい。

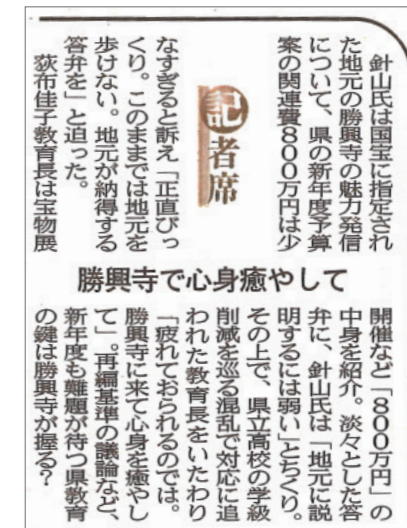


3 勝興寺の魅力向上について

① 県全体の文化観光や文化振興、国内外への魅力発信にどのようにつなげるか問う。

答 弁(知事)

国宝を記念した宝物展、高校生万葉短歌バトル、講演会など勝興寺で開催されるイベントを支援。県内を対象とし2市町村以上の文化財等を訪れるツアーへの助成を計上。県のWEBサイトに特集ページを作成すると共にインバウンド向けにも紹介する。



2023年3月9日 北日本新聞



4 少子化について

① 県立大学看護学部の卒業生の進路、県内定着率について問う。

答 弁(岡本経営管理部長)

今春に卒業する1期生120名のうち進学予定者29名、就職予定者89名(うち県内就職55名)。県内就職率は目標の60%を上回る62%。また、開設される大学院には学内推薦制度により看護学研究科へ2名、看護学専攻科へ20名が進学予定。

② 合計特殊出生率が県民希望出生率や人口置換水準と乖離している人口ビジョンを問う。

答 弁(知事)

県の会議での議論や各種指標の動向、国のビジョン改訂などに留意し目標値の妥当性について検討する。少子化への政策は難易度が高く、あらゆる施策を総動員して対処しなければならない。